

仲間と親とあゆみ続けて

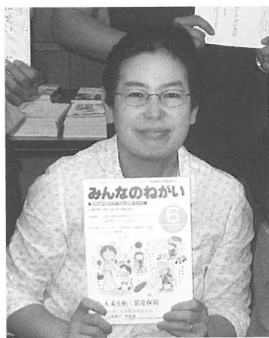
32年間の障害者福祉実践

第1回 仲間との出会い、障害者運動への参加

連載で考えたいこと

1984年、私は障害児施設の保母さんになることを夢見て、故郷の長野を離れ、愛知にある日本福祉大学短期大学部に入学しました。そこで近藤直子先生の発達心理学の授業で発達診断のスライドを見て感動したのが、私と発達保障理論との出会いです。それ以来、発達を学び続けることが自分のライフワークになっています。

翌年、同大学の社会福祉学部Ⅱ部に再入学。昼間は名古屋市にある、ゆたか福祉会で事務のアルバイトをしながら、売店で見つけた『ゆたか作業所——障害者に働く場を』（ミネルヴァ書房、2019年に復刊されました）のおかげで障害者作業所職員の仕事に出会い、バブル絶頂期の1989年にゆたか福祉会に就職しました。当時、名古屋市の公私間の格差を是正する補助金制度があり、給料は無認可作業所で働く



ゆたか希望の家相談支援事業所

佐藤さと子

さとう さとこ／日本福祉大学卒業後、社会福祉法人ゆたか福祉会に勤める。全障研愛知支部事務局長



入職1年目の貴重な体験

職員に比べると高い方でしたが、企業に勤めている同級生と比べると10万円は安いという現実は今と変わりません。この連載では、高校時代のボランティアで全障研に出会い、大学卒業後32年間ずっと障害者福祉現場で実践を続けてきた私が、利用者（連載では「仲間」と呼びます）やお母さんたちとの出会いを通して知った実践の楽しさと感動、また厳しい労働条件の中での葛藤とそれを変えていく障害者運動への参加から学んできたことの数々を、私の考え方や失敗からスタートして一緒に考えながら、提起していきたいと思えます。連載を通して現場のすべての職員が、社会福祉労働者のおかれている立場と役割、そして「働きたい」を再認識していくきっかけになってほしいと願っています。

1989年、私はその年に開設した「さわやか共同作業



所」でパンの製造と販売の仕事に就きました。当時は就労継続支援B型という制度はなく、仲間たちに高い給料を保障する事業所としてスタートした無認可共同作業所です。職員3名、仲間6名でパンを焼き、販売に回る毎日でした。朝早くからパンの仕込みを始め、午前11時にはほぼ焼き上がり、袋入れをして、仕分けをして、配達に行きます。昼食をゆっくり食べる時間のゆとりはなく、時間に追われていました。仲間たちは各作業所や一般企業で働いていた力のあるメンバーで、それぞれプライドをもって仕事にとりくんでいました。そこで出会った仲間の一人が当時30歳の中尾さんです。

てんかん発作のある中尾さんは、手先が器用でパンの丸めの作業をすぐに覚えましたが、忙しい時間帯に発作が出てしまうことがありました。3名の職員では余裕がなく、発作後は一人で寝てもらって回復を待つことしかできません。「仕事你先か、仲間の健康観察が大切か」——若い私は、ベテラン職員に食ってかかったことが何度もありました。でも、イースト菌は時間を待ってくれません。1分でも遅れると過発酵になり、30秒で菓子パンはこげて商品にならなくなってしまう。結局、てんかん発作が起きたら彼女は一人で休憩していることになりました。

無認可共同作業所として「ゆたか共同作業所」ができたのは1969年4月のこと（1972年に通所の授産施設として制度化されました）。20年経っても、こんな厳しい職員配置のなかで本当に仲間のための実践ができるのか、そもそも週1日の休暇すら取れないという労働条件のなかで新人職員

である私は、かなり迷い、悩みました。全職員が集まる場で厳しい労働実態について泣きながら発言すると先輩たちが励ましてくれ、同期の職員とは研修の場で障害者福祉についてさまざまなことを一緒に学び、日曜日の販売でも応援してくれるようになり、少しずつ労働条件が変わっていきました。そうしたなかで一番励ましてもらったのは、実は仲間たちの変化や成長でした。はじめはパン生地丸めができないと飛び出していったり、「私は洗い物しかとりえがないから」と洗い物ばかりしていたり、できあがったパンをどうしているかわからないなど困っていた仲間たちが、3ヵ月もしないうちにみんなが自分の役割を自覚して仕事をしていく集団に大きく変わりました。中尾さんの発作も少なくなり、職員としての自分の仕事に手ごたえとやりがいを感じていききました。仲間たちの発達の事実は職員としての働きがいにつながっていったのです。

しかし、労働条件が少し良くなったとはいえ体調面に不安があった私は転勤願を出し、1年で職場が変わることにしました。仲間たちはその後久しぶりに会うと「元氣？」と手を振ってくれました。申し訳なさとなくかしさが重なりつつも、彼らとのかかわりは32年経った今でも続いています。無認可共同作業所の立ち上げを入職1年目で体験できた貴重な1年でした。

仲間との暮らしの中でたくましく

それから5年後に、中尾さんのいるグループホームに転勤

